

令和3年度

動物実験に関する自己点検・評価報告書

国立大学法人京都大学

2022年7月

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

1) 評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する機関内規程を定めている。 <input type="checkbox"/> 機関内規程を定めているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 機関内規程を定めていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・京都大学における動物実験の実施に関する規程（平成19年2月5日達示第25号制定）（最新改正：令和2年9月29日）
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 環境省の「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」（以下「飼養保管基準」という。）と文部科学省の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」（以下「基本指針」という。）に則って、京都大学における動物実験の実施に関する規程（以下「学内規程」という。）が定められており、必要に応じて最新の情報を反映させるため適宜改正して運用されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

2. 動物実験委員会

1) 評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会を設置しているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会を設置していない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・京都大学における動物実験の実施に関する規程（平成19年2月5日達示第25号制定） ・部局動物実験の実施に関する要項、内規等 ・全学動物実験委員会名簿 ・部局動物実験委員会名簿
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 飼養保管基準及び基本指針に適合した動物実験委員会が置かれている。 全学委員会及び部局委員会の大半が、基本指針に定める3種のカテゴリーの委員によって構成されている。 全学委員会では令和3年4月に「その他学識経験を有する者」を1名追加し、委員会の体制を強化した。 また、令和3年度より全学委員会及び部局委員会の開催時には、基本指針が定める3種のカテゴリーの委員が必ず審議に参加するよう日程調整、参加方法を考慮するよう周知した。

4) 改善の方針、達成予定時期

3) の対応について、引き続き、部局の状況に応じた方法で対応するよう進める。

3. 動物実験の実施体制

1) 評価結果

- 基本指針に適合し、動物実験の実施体制を定めている。
- 動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験の実施体制を定めていない。

2) 自己点検の対象とした資料

- ・ 京都大学における動物実験の実施に関する規程
- ・ 部局動物実験の実施に関する要項、内規等

3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。）

動物実験の実施に必要な動物実験規程等及び各種申請書様式等が適正に定められている。

4) 改善の方針、達成予定時期

該当せず。

4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

1) 評価結果

- 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めている。
- 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。
- 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めていない。
- 該当する動物実験を行っていないので、実施体制を定めていない。

2) 自己点検の対象とした資料

- ・ 京都大学における動物実験の実施に関する規程
- ・ 部局動物実験の実施に関する要項、内規等
- ・ 京都大学組換えDNA実験等安全管理規程
- ・ 京都大学組換えDNA実験等安全管理規程施行細則
- ・ 京都大学化学物質管理規程
- ・ 京都大学における放射性同位元素等の規制に関する規程
- ・ 京都大学における病原体等の管理に関する規程

3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。）

安全管理に注意を要する動物実験の実施に関連する様式や手続きを整備している。

4) 改善の方針、達成予定時期

該当せず。

5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 評価結果 ■ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 京都大学における動物実験の実施に関する規程 ・ 部局動物実験の実施に関する要項、内規、基準、マニュアル等
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 飼養保管施設等の設置と廃止に関する要件が規程等に定められており、確認に必要な各種書式等も適正に定められている。また、飼養保管施設には標準作業手順書として部局動物実験の実施に関する要項、内規、基準、マニュアル等が定められている。 令和2年度の外部検証で、一部の部局の飼養保管マニュアルについて、不十分なところが見受けられるとの評価を受けたが、令和3年度に本部にて飼養保管マニュアルのガイドラインを定め、各部局にて見直しを行うよう周知した。
4) 改善の方針、達成予定時期 3) の対応について、ガイドラインを参考に部局の状況に応じた方法で対応するよう進める。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

令和2年度に外部検証で高く評価された項目は今後も維持し、指摘があった項目は改善に向けて取り組んだ。引き続き、部局の状況に応じた方法で対応するよう進める。
--

II. 実施状況

1. 動物実験委員会

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合し、適正に機能している。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 京都大学動物実験委員会議事要旨（令和3年7月30日） ・ 京都大学動物実験委員会議事要旨（令和4年3月24日）
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 京都大学における動物実験の実施に関する規程等に基づいて、学長の諮問機関として委員会を開催し、関連事項に関して審議した。 令和2年度の外部検証で、一部の部局動物実験委員会の議事録について、不十分なところが見受け

られるとの評価を受けたが、令和3年度に本部にて議事録のガイドラインを定め、各部局にて見直しを行うよう周知した。

4) 改善の方針、達成予定時期

3) の対応について、ガイドラインを参考に部局の状況に応じた方法で対応するよう進める。

2. 動物実験の実施状況

1) 評価結果

- 基本指針に適合し、適正に動物実験を実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検の対象とした資料

- ・動物実験計画承認報告書
- ・動物実験結果報告書
- ・自己点検報告書（動物実験実施状況）
- ・事故報告書

3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。）

動物実験計画書の立案、審査、承認、結果報告が適正に実施されている。

4) 改善の方針、達成予定時期

該当せず。

3. 安全管理に注意を要する動物実験の実施状況

1) 評価結果

- 基本指針に適合し、当該実験を適正に実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。
- 該当する動物実験を行っていない。

2) 自己点検の対象とした資料

- ・動物実験計画承認報告書
- ・動物実験結果報告書
- ・自己点検報告書（動物実験実施状況）

3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。）

法令に適合した動物実験実施状況であることを確認した。また、以下の6件の針刺し3件、切創2件、打撲1件の事故等の報告があったため。

内訳：医学研究科（針刺し1件、切創1件）、高等研究院（針刺し1件）、霊長類研究所（針刺し1件、切創1件、打撲1件）。

4) 改善の方針、達成予定時期

各部局にて制定されている行動指針やマニュアル等の遵守・必要があれば見直しを行い、予防策等を周知徹底する。

4. 実験動物の飼養保管状況

1) 評価結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検の対象とした資料

- ・自己点検報告書（飼養保管施設管理状況）
- ・自己点検報告書（実験室管理状況）

3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。）

霊長類研究所で動物の逸走や従事者の事故に繋がるヒヤリハットが2件あったため。

4) 改善の方針、達成予定時期

各部局にて制定されている行動指針やマニュアル等の遵守を徹底する。逸走防止策として、作業手順の見直し、施設の構造の改善、逸走防止装置について見直し等を実施し、強化を図る。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 評価結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に維持管理している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検の対象とした資料

- ・飼養保管施設設置承認報告書
- ・実験室設置承認報告書
- ・自己点検報告書（飼養保管施設管理状況）
- ・自己点検報告書（実験室管理状況）

3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。）

施設の設置時に規程が求める設置基準を満たしていることを委員会が確認しており、自己点検報告書（飼養保管施設管理状況、実験室管理状況）の自己点検報告書の提出によって、適正に維持管理されていることを把握している。

4) 改善の方針、達成予定時期

該当せず。

6. 教育訓練の実施状況

<p>1) 評価結果</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</p>
<p>2) 自己点検の対象とした資料</p> <p>京都大学動物実験教育訓練 e-Learning 受講履歴 京都大学動物実験教育訓練 e-Learning 受講修了証 令和3年度京都大学実験動物管理セミナー受講履歴 京都大学における動物実験教育訓練実施状況（令和3年度） （e-Learning受講者数 <u>1,127</u> 人、それに加え、部局独自の講習会を霊長類研究所で<u>6回</u>開催 受講者数<u>35</u>人、総合博物館で<u>1回</u>開催 受講者数<u>8</u>人） 別紙1のとおり。</p>
<p>3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。）</p> <p>教育訓練の実施記録等によって基本指針に則した教育訓練が実施されていることを確認した。 また、実験動物管理者に日本実験動物学会の実験動物管理者等研修会受講を推奨した。また本学の京都大学実験動物管理セミナー受講を開催し、専門情報修得の機会を設けた。</p>
<p>4) 改善の方針、達成予定時期</p> <p>該当せず。</p>

7. 自己点検・評価、情報公開

<p>1) 評価結果</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</p>
<p>2) 自己点検の対象とした資料</p> <p>・京都大学動物実験に関する自己点検・評価報告書、動物実験に関する検証結果報告書、「動物実験に関する情報公開」のホームページ。 (https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/rule/ethic/arcku)</p>
<p>3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。）</p> <p>大学のホームページに自己点検・評価報告書をはじめとして、京都大学における動物実験に関する情報を公開している。</p>
<p>4) 改善の方針、達成予定時期</p> <p>該当せず。</p>

8. その他

(動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果)

令和2年度に外部検証で高く評価された項目は今後も維持し、指摘があった項目は改善に向けて取り組むこととする。

1) 京都大学における第6条第1号、第2号に掲げる動物実験委員会委員の構成

- ・第6条第1号に掲げる委員：教授13名、准教授5名
- ・第6条第2号に掲げる委員：教授1名
- ・第6条第3号に掲げる委員：事務1名

別紙2のとおり。

2) 京都大学における第6条第4号に掲げる動物実験委員会委員の構成

- ・動物実験に関して優れた識見を有する者：教授9名、准教授4名
- ・実験動物に関して優れた識見を有する者：教授3名
- ・その他学識経験を有する者：教授2名、事務1名

別紙2（役割欄）のとおり。

3) 部局動物実験委員会の構成（全部局の合計数）

京都大学における動物実験の実施に関する規程第9条による部局動物実験委員会

教授67名、准教授56名、特定准教授1名、講師13名、助教 17名、特定助教1名、
その他6名（技術職員1名、事務職員3名、学外2名）

4) 京都大学における動物実験の実施における自己点検・評価に関する報告書の集計について

別紙3のとおり。

5) 動物種ごとの飼養数・実験動物使用数の集計について

別紙4のとおり。

動物実験教育訓練実施状況(令和3年度)

部局名	全学共通e-Learning参加人数	左記以外の講習会参加人数	学共通e-Learning以外に開催した場合の研修実施日・実施回数
文学研究科	3	0	
理学研究科	46	0	
医学研究科	288	0	
薬学研究科	100	0	
工学研究科	22	0	
農学研究科	45	0	
人間・環境学研究科	0	0	
情報学研究科	39	0	
生命科学研究科	387	0	
化学研究所	0	0	
ウイルス・再生医科学研究所	15	0	
複合原子力科学研究所	18	0	
霊長類研究所	105	35	4/8、4/9、4/20、4/21、6/2、6/15 計6回
高等研究院	14	0	
iPS細胞研究所	36	0	
野生動物研究センター	1	0	
環境安全保健機構 附属放射性同位元素総合セン	0	0	
総合博物館	8	8	5/20 計1回
国際高等教育院	0	0	
合計	1127	43	

京都大学動物実験委員会委員名簿

令和3年4月1日

		所 属	職 名	任 期	役割※	専門分野	備考
1	1号	文学研究科	准教授	R2.10.1～R4.9.30	①	実験心理学	
2	2号	法学研究科	教授	R2.10.1～R4.9.30	③	基礎法学	
3	1号	理学研究科	准教授	R2.10.1～R4.9.30	①	動物行動学・爬虫類学・自然史学	
4	1号	医学研究科	教授	R2.10.1～R4.9.30	②	実験動物学・発生工学	委員長
5	1号	薬学研究科	准教授	R2.10.1～R4.9.30	①	薬剤学	
6	1号	工学研究科	教授	R2.10.1～R4.9.30	①	先端医工学	
7	1号	農学研究科	准教授	R3.4.1～R4.9.30	①	食品生理機能学	
8	1号	人間・環境学研究科	教授	R2.10.1～R4.9.30	①	運動医科学・内分泌代謝学	
9	1号	情報学研究科	教授	R3.4.1～R4.9.30	①	生物環境情報学分野	
10	1号	生命科学研究科	准教授	R2.10.1～R4.9.30	①	細胞生物学	
11	1号	化学研究所	教授	R2.10.1～R4.9.30	①	環境物質化学	
12	1号	ウイルス・再生医学研究所	教授	R2.10.1～R4.9.30	②	実験動物学、分子生物学	
13	1号	複合原子力科学研究所	教授	R2.10.1～R4.9.30	①	放射線腫瘍学、放射線生物学	
14	1号	霊長類研究所	教授	R2.10.1～R4.9.30	②	実験動物学・分子寄生虫学	副委員長
15	1号	iPS細胞研究所	教授	R3.4.1～R4.3.31	①	幹細胞生物学・腫瘍免疫学	
16	1号	野生動物研究センター	教授	R3.4.1～R3.7.31	①	比較認知科学	
17	1号	環境安全保健機構 附属放射性同位元素総合センター	教授	R2.10.1～R4.9.30	①	細胞生物学・生物工学・放射線安全管理学	
18	1号	総合博物館	教授	R3.4.1～R5.3.31	①	動物系統分類学	
19	1号	国際高等教育院 (理学研究科併任)	教授	R2.4.1～R4.3.31	③	植物生理・分子	
20	3号	研究推進部 研究規範マネジメント室	室長	R3.4.1～R5.3.31	③	研究倫理・研究規範	

※①動物実験に関して優れた識見を有する者
 ②実験動物に関して優れた識見を有する者
 ③その他学識経験を有する者

動物実験の実施における自己点検・評価に関する報告書集計表（令和3年度）

	動物実験計画書の審査のまとめ						動物実験 従事者数	飼養保管 施設の設 置状況	飼養保管 施設から 独立した 実験室
	許可件数				改訂後許 可 件数	不許可・ 取下げ件 数			
	新規	変更	継続	合計					
文学研究科	6	4	17	27	2	0	18	2	3
理学研究科	5	14	5	24	1	0	100	10	11
医学研究科	96	24	312	432	57	0	1,518	18	83
薬学研究科	3	19	40	62	0	0	134	6	16
工学研究科	1	3	9	13	9	0	90	4	1
農学研究科	20	8	71	99	22	0	1,058	14	28
人間・環境学 研究科	1	0	9	10	0	0	29	1	1
情報学研究科	7	0	18	25	0	0	58	2	1
生命科学研究科	3	2	22	27	0	0	192	11	19
化学研究所	0	0	0	0	0	0	0	1	1
ウイルス・ 再生医科学研究所	33	38	48	119	65	0	403	26	45
複合原子力科学 研究所	15	0	36	51	9	0	116	4	9
霊長類研究所	64	58	55	177	121	5	990	1	29
高等研究院	3	4	2	9	1	0	39	5	6
iPS細胞研究所	9	23	52	84	23	0	301	2	26
野生動物研究 センター	25	9	7	41	0	0	176	2	0
環境安全保健機構 附属放射性同位元素 総合センター	8	3	18	29	6	0	45	1	3
総合博物館	0	0	1	1	0	0	5	0	1
国際高等教育院	1	0	0	1	0	0	1	0	1
合 計	300	209	722	1231	316	5	5273	110	284

主要な飼養保管施設の名称：医学研究科附属動物実験施設、ウイルス・再生医科学研究所附属再生実験動物施設、
ウイルス再生研動物棟1、霊長類研究所人類進化モデル研究センター、iPS細胞研究所附属動物実験施設

動物種ごとの飼養数(年間平均飼養数)(令和3年度)

(頭数)

動物種名	文学研究科	理学研究科	医学研究科	薬学研究科	工学研究科	農学研究科	人間・環境 学研究科	情報学 研究科	生命科学 研究科	化学研究所	ウイルス・ 再生医科学 研究所	複合原子力 科学研究所	霊長類 研究所	高等研究院	iPS細胞研 究所	野生動物研 究センター	放射性同位 元素総合セ ンター	総合博物館	国際高等教 育院	合計
マウス	0	72	54,433	9,028	398	2,396	153	0	2,878	0	12,535	380	7	1,179	7,839	0	62	0	0	91,360
ラット	0	4	4,898	66	0	9	3	0	0	0	37	15	15	0	107	0	0	0	0	5,154
ネズミ	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
モルモット	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	10
ハムスター	0	0	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26
デグー	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29
ウサギ	0	0	94	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	94
イヌ	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
ブタ	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	6
ヒツジ	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
ウシ	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
サル類(類人 猿除く)	18	0	93	0	0	0	9	0	0	0	29	0	1,137	0	11	0	0	0	0	1,297
類人猿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	0	54	0	0	0	69
鳥類	28	416	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	459
爬虫類	2	153	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	155
	77	658	59,563	9,094	398	2,529	165	0	2,878	0	12,602	395	1,174	1,179	7,961	62	62	0	0	98,797

年間平均飼養数 = 延べ飼養数 ÷ 365日 (少数点以下切り捨て)

動物種ごとの実験動物使用数(令和3年度)

(頭数)

動物種名	文学研究科	理学研究科	医学研究科	薬学研究科	工学研究科	農学研究科	人間・環境 学研究科	情報学 研究科	生命科学 研究科	化学研究所	ウイルス・再 生医科学研 究所	複合原子力 科学研究所	霊長類 研究所	高等研究院	iPS細胞研 究所	野生動物研 究センター	放射性同位 元素総合セ ンター	総合博物館	国際高等教 育院	合計
マウス	0	1,296	84,638	31,602	3,513	16,924	19,695	5	3,530	0	54,973	3,100	60	4,129	16,156	0	705	0	0	240,326
ラット	0	120	10,080	322	23	1,311	37	0	0	0	11	115	300	0	420	0	3	0	0	12,742
ネズミ	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	27
モルモット	0	0	67	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	73
ハムスター	0	0	292	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	292
デグー	141	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	141
ウサギ	0	0	195	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	197
モグラ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
ブタ	0	0	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35	0	0	0	0	61
イヌ	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
ヒツジ	0	0	0	0	0	84	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	84
ウシ	0	0	0	0	0	77	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	77
サル類(類人 猿除く)	137	0	80	0	0	0	10	0	0	0	38	0	3,974	0	140	0	0	0	0	4,379
類人猿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	233	0	0	414	0	0	0	647
鳥類	18	30,500	4,600	0	0	146	0	0	0	0	0	0	0	0	168	0	0	0	0	35,432
爬虫類	0	218	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	218
	296	32,147	99,995	31,924	3,536	18,542	19,742	5	3,530	0	55,028	3,215	4,567	4,129	16,753	582	708	15	0	294,714

実験動物使用数 1頭(匹)を2回の実験に使用したとき2頭(匹)と計上(延べ使用数)